

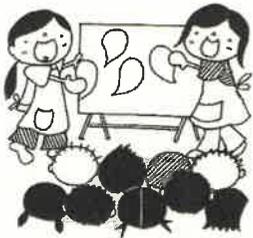
～学びとなったこと～

<研究会メンバーによるまとめ資料>

保育を振り返ろう ～子どもの姿から～

子どもたちがよく遊んでいたなという日、今日は今一つ遊ばなかったなという日、Aちゃんが遊びにはいれなかったなという日など、子どもの姿は日々変化します。

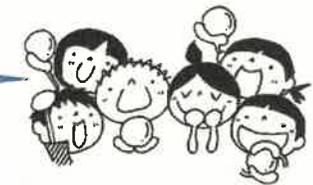
- ・朝の受け入れはどうだったか
 - ・保育士の対応はどうだったか
 - ・保育の中で子どもと保育士の思いにズレはなかったか など
- 子どもたちの姿から分析して、何を準備すればよかったか、どんな支援が必要だったかなど、考えていきたいと思います。



保育を振り返ろう ～保育の記録から～

一人ひとりの子どもを理解するには、日々の保育の記録が大事。『楽しそうだった』『集中していた』だけでは、子どもの様子がわからないので、子どもが今日どんなことをつぶやいていたか、どんなことを考えていたか、どんなことに興味を示していたかなど、具体的な子どもの姿を記録する必要性を感じました。具体的な子どもの姿や、子どもたちのつぶやきを書き留めておくのはもちろんのこと、言葉にあらわさないこともあるので、表情やしぐさ、それまでの経過などにも目を向け、子どもの理解を深めていきたいと思います。そのことから一人ひとりの成長に応じた保育、明日の保育につなげていけるようにしていきたいです。

保育所って楽しい！
と思える毎日のために…
保育者として大切にしたいこと



保育を振り返ろう ～語り合いから～

今日の保育はどんなねらいだったのか？今日の保育はどうだったのか？子どもたちにどんな力が育まれたのか？育まれたと思ったのはどんな場面からだったのか？など、保育者同士で保育の話をするのも「保育の振り返り」になると感じています。話をする中で、その日のねらいや子どもたちに育みたい力が明確になったり、次の保育に見通しをもち計画したりできるのではと思います。

子どもの姿とともに互いの保育者の頑張っていたところを認め合ったりして共感し、保育者の人間関係も深めていきたいです。アドバイスや今までの保育の中での経験を聞いたりする等、いろいろな意見も受け入れやすくなるように日常的に、気軽に話をするのが大切だと思います。また公開保育などお互いの保育を見合える機会をもち、客観的に保育を見て、保育の質の向上につなげていきたいです。

保育所みんなで子どもの育ちを支え合おう

子どもの姿、保育観、保育室の環境、コーナー、おもちゃ、そして保護者対応など、保育の悩みはつきません。でもそんな時は、クラスとして、また保育所全体としてどのような子どもの育ちを目指すか、こんな子どもに育てたいという思いをしっかりと話しあうことが大事だと思います。あれもこれもと思うと難しいので、ポイントを保育所内ではっきりさせて取り組んでいくと、育みたい子どもの姿が明確になるのではと思います。保育者も子どもも「保育所って楽しい！」を大切にしていきたいです。



子ども理解を深め、保育をつなげていこう！

【子どもの姿を理解する】

- 子どもの様子を観察し記録していく。
- 保育の振り返りをする。(出来事の経過と子どもの心情がわかるよう具体的に)『なぜ』を考える。
なぜその活動が楽しかったのか？
なぜ活動に入ってこなかったのか？ 嫌がったのか？など
『ねらい』は子どもの姿や発達に沿っていたのか？



記録をする、保育を振り返ることで…

- 客観的に、様々な視点から子どもの姿を理解する手がかりとなった。
- 次の保育につなげていくことも大切だと感じた。(週案・月案の中で具体化していく)

主任として…保育の振り返りと記録の重要性を感じ、ねらいの設定と次の保育へのつながりを意識し、助言をした。



【助言や指導をしていく中で】

- 子どもの姿を客観的に観察したことを伝えながら、保育の中での困りや子どもへの対応の難しさなど一緒に考え、次につなげていくようにしていく。
- 保育の中で次にどうしていったらよいかなど見通しが持てるよう保育所全体で考えて共通理解する事、保育所としての保育の方向性など整理して実践していく。
- 職員の姿も理解していきながら職員同士つなげていく役割を担っていくようにする。

【主任として大切にしていきたいこと】

- 子どもの姿を客観的にとらえるために、クラスの様子を観察し、時には保育の中に入っていき、大切にする。
- 職員一人ひとりの様子もよく観察し、考えを聞き把握していくことで一人ひとりに合わせた分かりやすく具体的な助言や指導をしていく。
- コミュニケーションをとり、職員間をつないでいき、保育所全体で話し合いをして保育を主体的にすすめていける環境づくりをしていく。



【職員間のコミュニケーション】

- 職員一人ひとりの様子をよく見てみる。
- 話をよく聞く。



保育への考え、楽しいこと、自信をもっていること、困っていること、担任間の保育観のちがいなど。



- 保育の中に入り、一緒に考え共感し合うことで、客観的に子どもの姿をとらえることが大切
- 職員一人ひとりの思いや考えを知り、分かりやすく具体的なアドバイスが必要



クラス担任の様子や保育観の違い、助言をした時の相手の様子や反応を知る機会となった。

「見る」ことでつながっていく保育

□ 保育者→子ども

発見 気づき

- ・「何をしようとしている？」
 - ・○の時は…△の時は？
 - ・何に困ってる？
- 子どもをよく見ることで、子どもが今何を思っているのか、どうしたいのか、何に困っているのか等、気づきや発見がある。

記録する

- ・見たままの姿（事実）根拠（なぜ？）を書き残す。
- ・文字にすると客観的に見える。
- ・記録しておくことで、さかのぼって成長が見える。
- ・ねらいや手立ては、カリに書くことで意識する、頭に残る、行動をおこすことに繋がる。

「姿が変わった?!」
気づき→「次はどうする?」

振り返る

- ・日常で話しているちょっとした子どもの姿に対して、「じゃあどうする?」「次はこうしてみよう」などその先まで話をすると、次に繋がっていく。
- ・振り返ることが習慣になると保育が繋がっていく。

なぜ?の視点

視点を絞る
客観的に見る



「どうするのかな?」

「!!そういうことか」



スタート

子どもをよーく見よう

発見 気づき

- ・保育を客観的に見ると、担任が気づいていない子どもの姿が見える。
- ・保育を見ることで、活動や環境、担任の関わりなどの良かった点、改善点が見えてくる。
- ・見る時に「ねらい」をもとに保育しているか?ということ意識すると、さらにポイントが絞れて見ることが出来る。

□ 主任保育士→保育

記録する

- ・「この場面では、こんな関わりがあった」「こんな姿があった」など、実際の子どもの姿や保育士の関わりを記録する。文字にすることにより、ねらいや活動の内容がどうだったかを掘り下げて振り返ることができる。

姿を共有

振り返る

- ・保育を見る中で、見えてきた子どもの姿、活動、保育士の関わり、環境の良かった点、課題について担任と共有する。一緒に考える。→担任の気づきになる。→次の手立てやねらい、活動に繋がる。

保育をよーく見よう

実践 ねらいを立てる

- ・振り返りから、立てたねらいをもとに、次の活動や関わりを行なっていく。

学びとなったこと

- ・子どもの姿を「見る」ことで、いろいろな発見ができる。さらに子どものひとつひとつの行動に意味を考えることでより深い発見になり、その後に繋がっていくことができる。
- ・保育も「見る」ことで、プラスの助言や課題について担任と共に考えることができ、その後に繋がっていく。「見る」ことで子どもの姿が見え、保育についての学びにもなる
- ・“保育者が子どもを見る” “保育者が保育を見る” どちらも「よく見る」ことから始まり、保育の土台になっていくということを学んだ。

今後大切にしたいこと

今回「見る」ことの大切さを改めて学んだ。私自身が子どもを「よく見る」ことを実践し、そこでの気づき「こんなことしてたで！すごいな～」と子どもの「すごい！」を伝えていく。そうして「見てると面白い!」「なんでかわかった!」と、思ってくれるようにしたい。また、普段からクラスに入り、気づいた子どもの姿と一緒に共感したり考えたりする中で、保育について担任と共に悩んだり喜んだりすることをしていきたい。

保育の目標とは？

『子どもが現在を最もよりよく生き、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う』（保育所保育指針より）

そのために…

子どもや保育についての理解を深め、よりよい保育の実現に向けたアイデアを生み出す上で、**様々な人たちと語り合い**、多様な視点を取り入れたり、自分の思いや直感を言葉にして発信したりすることはとても大きな意味をもつ。（保育所における自己評価ガイドライン ハンドブックより）

保育の質を高めるために… 主任の役割ってなあに!?

主任の役割で大切にしたいこと…

保育を語れる職場の環境づくり

- ▶ 保育士と一緒に保育を振り返り、語り合う時間を大切にする。
- ▶ 子どもや保育について一緒に考えようとする主任の姿が、園全体で子どもを理解しようとする雰囲気をつくる。
- ▶ 指導や管理でなく、担任にいかに近づいて援助するかが大事。
- ▶ 担任の考えをまず聞く。
- ▶ 一緒に考えるというスタンスで子どもの姿を通じて話しをする。
- ▶ いろいろなことを園全体で話し合い、共有していくことを大切にする。

保育の振り返りのポイントとは？

- ▶ 日々の園生活で、指導案や一日の保育で「ねらい」を達成するために保育をしているか。
- ▶ 保育のねらいを達成するための環境構成になっているか。
- ▶ ねらいを達成するために保育者はどんな援助をしなければならないか。
- ▶ ねらいが達成できた時は具体的にどのような事実からか、達成できなかったのはどのような事実があったからか。

保育を振り返るうえで大切なこと

- ▶ 日々の保育の記録を書くことで振り返る。（指導案、日案、日誌）
記録は「楽しんでいる」など、保育者の想像でなく**事実**にそって**具体的に書く**。
- ※記録は子どもをしっかり観察しなければならず、子ども理解につながる、記録を書くから見えてくる。

それでもうまく伝わらないとき…

「子どもにとってどうなのか」に立ち戻って伝える！

上記を深めて伝えるために…（感想と今後へ向けて）

子どもが何に興味を持ち、どのようなことを感じているのか、一人ひとりの子どもの姿をよくとらえ、発達のみちすじに立ち戻って、年齢や姿に応じた保育を常に考えていくこと（経験だけに頼らない）を担当に求めるだけでなく、**主任自身の姿勢が大切と感じた。**

保育の質を高めるための主任の役割

保育の計画(子どもたちの成長を支えるために)

- ・子どもの姿を把握し「ねらい」を考える。
- ・「ねらい」を達成するために環境構成を考える。
- ・予想される活動や子どもの姿を書く。
- ・「ねらい」を達成するために保育者の支援を考える。



活動

保育の振り返り

- ・活動の様子から「ねらい」は適切だったのか、子どもの興味や発達に沿っていたのか？
(子どもの姿から具体的な事実を捉える)
- ・子どもの姿が理解できているか。
(理解できていれば、さらに成長を促すための「ねらい」が作成できる)



支援



主任として保育者への支援のポイント

- ・保育者の話をしっかり聞く。
- ・良いところ、頑張っている所を認める。(共感)
- ・失敗談・成功談など、自分の経験も伝える。
- ・気付いたことの中で、言うのは1つだけ。
(あせらず、徐々にステップアップ)
- ・自分も行動にうつす。
(やってみて!ではなく、して見せる)



主任として大切にしたいこと

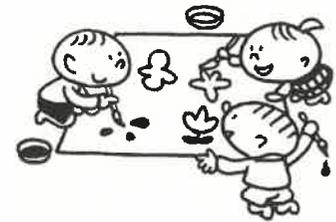
～保育の質の向上を目指して～

- ★日々、語り合う時間、コミュニケーションをとる。
 - ・経験の浅い保育者には、スモールステップで、丁寧に伝える。
 - ・経験豊かな保育者とも一緒に語る。
(連携につながる)
- ★子どもにとってどうだったかという視点で見る。
 - ・発見したことを保育者に伝えることで保育の方向が見えてくる



明日の保育へとつなげよう！

～子どもの姿を観察し、記録することで見えてくる～



前回の評価反省 → **保育の実践** → 振り返り → **評価反省** → 次回の保育の実践

ポイント

- ・これまでの子どもの姿から保育のねらいを考え、子どもの成長をイメージしながら保育の内容を考える。
- ・環境を通して保育をすることが大切。どの子ども遊びに受け込めるような環境を準備できるように。
- ・どんな子どもの育ちを目指しているのか保育所全体で統一しておくことも大切。

ポイント

- ・子どもをしっかり観察し、具体的な子どもの姿を記録する。(子どもがどんな言葉を発していたか、どんな表情をしていたかなど。)
- ・固りばかりを書き出すのではなく、どんなことに意欲をもっていたかを書き出す。

書いていることに意味のある記録に！！

ポイント

- ・具体的な子どもの姿を見た上で、なぜそうなったかを考えて記録。
- ・担任間で語り合い、子どもの姿や課題を共有する。
- ・改善すべき点を次の指導計画に反映させていく。(ここで次のねらいが生まれる。)

保育の実践 → 振り返り → 評価反省、この流れが繰り返されて日々の保育は展開される

☆保育のどの場面においても「子どもの姿をよく観察すること」が大切である

指導の際に大切にしたいこと

- ・話しやすい雰囲気、相手の話を聞こうという姿勢、共感する姿勢。
- ・子どもの姿をキャッチして伝えることで、伝えたいことを伝えやすくする。
- ・ねらいを常に確認し、うまくいかなかったらその原因を一緒に考える。

今後、保育者・主任として大切にしたいこと

- ・保育者が成長することは、子どもの育ちを伸ばすことに繋がることを意識する。
- ・どんな子どもの育ちを目指しているのかを職員間で共有する。
- ・日頃のコミュニケーションを大切にしながら、それぞれの担任との人間関係を築いていく。



保育記録を書くときに意識をしたいポイント

- ・日誌には『ねらい』と活動内容に沿った当日の保育の様子を記録する。
- ・子どもたち一人ひとりの様子を客観的に記録する。
- ・『ねらい』通りにうまくいったこと、うまくいかなかったことも記録する。
- ・『ねらい』と活動内容が子どもの発達や興味に沿っていたかどうか評価反省する。
- ・日々の活動にどのような『ねらい』をもつか、週案、日案の立案の時も考える。

※今後の『ねらい』や活動内容を考えるヒントやアイデアを見つけてスモールステップを基に、今日の保育の結果を明日への保育につなげていく。



一人ひとりに寄り添った保育を展開するために

- ①事前に活動に必要なものを準備しておく。
- ②身の回りの物の始末は絵カードや手順表、ホワイトボード、マーカー等を使って説明すると理解しやすい。
- ③クラスルールや約束は子どもたち全員と確認すると守る意識が芽生えやすい。
- ④子どもたちを集めて話をする時は集中時間を考えて、10分程度に話をまとめる。
- ⑤初めて楽しむ活動はルール説明などを含めて30分間程度にし、いつでも続きを楽しむことができるよう準備しておく。
- ⑥『ねらい』通りにいったか、いかなかったか、理由を客観的に考える。
- ⑦担任以外の保育士に尋ねたり、実際に子どもの姿や保育を見てもらおう機会をつくる。



保育力up ↗

こどもたちのために！！

ひとりで考えない

日々状況が変化する中で子どもや保護者に最善の対応を行うためには

★保育所内での方針を職員全体で確認する。

★対応に困ったら相談できる体制をつくる。



子どもや保護者への対応については職員全体で意志一致を行い、一貫した対応を行うようにする。一人で考えて行動しないようにすることが大切にする。

一昨年より新型コロナウイルス感染症拡大防止を最優先に考えた保育活動を行ってきています。

- ・全ての行事や保育内容に3密を避けた対策を行うようにした。
- ・保護者が参加する行事については1m以上の間隔を空け、十分な換気を行った中、短時間で実施を行い、できない活動については中止を検討する。(手洗いの励行、手指消毒、2日前からの健康記録、マスク着用等)
- ・緊急事態宣言、まん延防止措置の間は全ての行事を延期または中止した。
- ・ワクチン未接種の子どもたちに新型コロナウイルス感染症が広がっている現状を踏まえ、更なる感染症対策を行っていく。



Withコロナ

主任として、保育者へのサポートをすることから見えてきたこと
～保育の振り返りの大切さ～

- 日々、子どもの姿をよく観察して“ねらい”を立て、活動内容を考えることが大切。
→子どもの成長、発達、興味・関心への理解を深めよう。
- 子どもの姿（実際）と根拠を記録し、考察・評価・反省をしていく。
→記録を書くことで見えてくる。次の活動の“ねらい”につなげていけるように。

クラス担任と保育の振り返りをすることで …

- 保育を客観的に見ることで、環境や構成、子どもの姿、保育士の関わり方などの良かった点や課題について気付いたことを話し合えた。
- 保育の質の向上をめざして、相談やアドバイスなど話をする機会ができた。
- ”ねらい”を達成するために必要な手立てを担当と一緒に考え、いろいろな話をする機会になった。



保育の中で大切にしたいこと = 「子ども理解」

- ★子どもの姿をよく観察し、育ちを理解しよう。
- 個別に寄り添い、一人ひとりを大切にしよう。
 - 子どもの「つぶやき」に耳を傾け、「興味」を知ろう。



保育者（主任）として大切にしていきたいこと

- ★日頃のコミュニケーションの機会を大切に、関係づくりをしていく中で、
- 話しやすい雰囲気づくりをする。
 - 穏やかな口調で丁寧に言葉を交わす。
 - 傾聴する姿勢。
 - 頑張る姿や努力している姿など見つけて伝えていく。

助言する時に気を付けたいこと

- 世代や経験の違いを考慮して話をする。
- 子どもの姿を意識できるように、実際の姿を知らせながら伝える。
- 話を最後まで聴いてから、共感したりアドバイスしたりする。
- 頑張りや良かったと思われる点を伝えて、意欲や自信にしつつ自分で振り返りができるようにする。
- 失敗談も含めて、今までの経験から伝えて参考にしてもらえようようにする。
- 一方的にならないように、主体性を大切にしながら一緒に考えるようする。

振り返りを通して、リーダーとして学ぶ合う雰囲気を支えよう

保育現場の生の声

子どもの姿・今の成長段階をよく知る担任保育士によるねらいを立てた上で、実践した保育



実践前に想像される子どもの姿と実践後の姿の差異



子どもの困り、保育者の困り、保護者の困りが見えた



見てほしい・気づいてほしい場面の詳細の『今』を伝える

『今』の保育現場の様子を自身の目・耳で知る

主任保育士として何ができるのか

現場の『今』ヘルプが必要な場面を知ろうという姿勢を忘れることなく、積極的に知ろうとする



実際に必要なヘルプは？

例：人員を増やす・保育環境やねらいの見直し



指導した内容をマイナスにとらえるのではなく『一緒に』考える

園全体での周知

クラスの事例をクラス内で終わらせるのではなく、園全体に周知し、様々な視点から意見を交換する機会を設ける

会議として改まった機会だけでなく、普段から意見交換・交流ができる雰囲気づくりを全職員が心がける

周知や、意見交換・交流の方法は？園独自の工夫を、研修や研究会を通して知り、自園にはどのような形で

取り入れることができるのかを職員間で話し合う

実際に取り入れたことに対して、変更が必要なときは後退と捉えず前向きに、

考えられるよう一人ひとりの意見を大切にする

振り返り・評価後の記録は、わかりやすくまとめる、まとめや記録に時間がかかり、実際の保育が削られたり、

時間外勤務による職員の負担とならないように



保育の振り返りを大切にしよう

日々の保育の記録を書く（日誌から保育の振り返りをする）

・子どもの姿を観察し「ねらい」をたてる

子どもの姿をみて子どもの成長過程を理解する。遊びの中で、子どもがどんなことをつづやき、何を考えていたか。何に興味を示していたか。子どもをしっかりと観察する中で、ねらいをたてることが大切である。

・「ねらい」を達成できたと考えるのはどのような事実からか？を考えよう
なぜ、気持ちがのらない子がいたのか。どのようにしたら、子どもが集中して主体的に取り組めたのか。など、ねらいを達成することができたのは具体的にどのような事実からかを考えることが大切である。



全職員で子どもの姿を共有する中で

「子ども理解」を深めよう

公開保育をする中で客観的に保育をみる

- ・公開保育をすると、見えていなかったものが見えてくる。
- ・公開保育は、見せる保育ではなく日常の保育を行う。
- ・指針には一斉保育がよいとは、どこにも書かれていない。
子どもにとって、どうなのかを考えていくことが大切である。
- ・実践記録を見直していく

なぜ、このねらいにしたのか。保育士がどう関わったのか。子どもはどのような姿がみられたのか。どのようにすれば、子どもたちが意欲的に取り組めたか。などを考えていくことが大切である。



保育の質の向上をめざして

職員への助言について

・保育士が努力したプロセスを認める声かけを大切に
していく。

⇒保育士の自信につながる声かけをしていく。

- ・子どもの育ちにとってどうなのか。育ちや意欲を阻んではいけないか。常に保育環境を考えていくことが大切である。
- ・指針が根拠となるので主任自身が自分で学ぶこと、経験を積むことが大切である。

主任として保育士を援助していくことや、保育士と保育を振り返り
語り合う時間を大切にしていきたい。



職員全体で子どもの姿やクラスの課題などを共有していく

- ・子どもが個性を大切にされ主体的に取り組んでいるかを職員全体で考える。⇒保育士が丁寧に接すると、子どもも優しく丁寧に友だちに接するようになるのではないかと。皆で支え合える関係を大切にしたい。
…例えば、乳児クラスのコーナー遊びを、乳児クラスの担当保育者だけで決めず、職員全体で子どもの姿やクラスの課題を共有する。その上で解決方法等を話し合うことを大切にしていきたい。

コロナ禍での保育の工夫をしていく

- ・一斉にしていたことの見直しをしていく。
例えば・・・散歩を少人数でする。食事を少人数で時間を決めてする。修了を祝う会を所庭でする。など、
今までの固定観念にとらわれず、保育の工夫をしていきたい。



今後保育者（主任）として大切にしたいこと

保育の振り返りをする

保育者が教育的意図をもってかかわることで、子どもの楽しむ姿が見られます。

- 何をねらいにして**どんな力**をつけようと思っているのか？
 - 子どもたちに何を気づかせたかったのか？
 - 子どもたちの**学び**はあったのか？ など
- 担任の先生の話聴き、保育を**振り返る**ことで保育を向上させることを目指します。



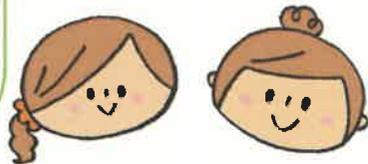
今日のねらいは何？
と聞いてみる

職員への助言は

- まず相手の話を聴きます。
- がんばっている事、良かった事を伝えます。
- 自分で**気づき**を引き出せるように、**共感**しながら具体的に質問していきます。
- 自分の**失敗談**を伝えていきます。
- 子どもに丁寧に関わってもらえるよう、**視覚支援**の使い方などを実際にやって見せます。

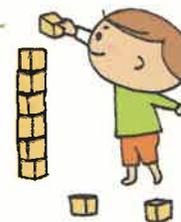
子どもの育ちを大事にした 保育をするために ～主任の役割～

一緒に考えていきましょう
という気持ちで



実践記録をとることで

- 子どもの姿を**観察、記録**をすると楽しんでる姿や分かりづらそうにしている姿などが見えてきます。
- 子どもがわかりやすい言葉かけてどんなふう？
 - 子どもの育ちにあったねらいかな？
 - 子どもたちが、こちらの想像していない発見や気づきに
出会っていることがあります。それに気づいて
あげられると学びが広がります。



子どもの気づきを大切に！

保育士・主任として大切にしたいこと

- 様々な業務があり、続けてクラスへ入っていくことが難しいですが、子どもや保育者の理解を深めるために、もっと意識的にクラスへ入っていきたいです。
- 相手の思いを受け止め、子どものことや保護者のこと、保育のこと等を気軽に話ができる主任でいたいと思います。
- 「子どもにとってどうだろう」と子どもの育ちを大事に共に考え、学び合っていきたいです。

**保育力フォローアップ研究会での学び
～実践から見えてきたもの～**

実践内容:

主任として保育士の日誌や保育を見て、助言や指導をしていく。

実践を通して感じたこと

実際に保育をしている保育士と客観的に見ている自分とで大きなずれがあると感じた。

園として決まっていることとで感じている？

知っていると思っていたが知らないことも多い…

構えてしまったら、言われると感じているのでは…

～実際に助言や指導をしていく中で～

相手が言われてしまったと感じることもあったり、話をしていく中にもずれや伝わり方が変わってしまうこともあったり、伝えていく難しさを感じた。また、その時だけでなく普段から保育を見ていかなければ構えてしまう姿もあった。そして、保育している職員はその時に必死になっていることから客観的な視点でみることや伝えることでさまざまな気づきも出てくることもあった。そして、客観的に伝えることで新たな、方法や変遷の仕方を考えて実行に移そうとする姿へと変わっていった。

**指摘やアドバイスだけでなく
良いところをたくさん褒めていこう**

アドバイスでも年数が離れているほど威圧的に感じてしまうものがあるので、普段のやりとりをたくさん言葉にしながらも、こうしたらよくなるというアドバイスをすることで相手も受け入れやすくなる。

**普段から積極的に
コミュニケーションを取ろう**

いきなり、声をかけられると職員は構えてしまうこともあり、指導や気になることを伝えでも相手は言われてしまったと思ってしまう。普段からコミュニケーションを取っていくことで話しやすい雰囲気を作ることが大切。

**他園所の主任とのディスカッションや
助言や指導をしていく中で感じたこと、
大切にしたいこと**

できるだけ現場に足を運ぼう

普段から職員がどんな保育をして、どんなことで悩んでいるのかを現場に足を運んでいくことで、客観的な視点からのアドバイスを伝えやすくなり、悩みを理解しやすくなる。

**園ではどんな方針なのか
みんなで話をしていこう**

様々な悩みや疑問が出た際に園ではどんな方針なのかを知っていくことで園の方針をもとに保育を積み立てていくことができる。また、共通の理解もしていける。

研究会でいろんな主任の先生と話をしていく中で、同じような悩みがあったり、お互いに信頼感があるからこそ助言が生きてくるのだと感じた。また、園全体として考えていくことで共有することも大切である。子どもがのびのびと育っていきけるようにしていくには、保育士自身が自信をもったり、意欲をもち積極的に振り回すや実践に移していけることが一番である。主任として保育士が自信をもって保育できるように客観的に伝えていくことが保育の向上や園としての共通理解につながるのではと思う。

大切な日々の コミュニケーション！

今回、研究会に参加し、記録を書くことで見えてきたこと、保育の振り返りや職員への助言を通し、強く感じたこと…それは、日常から職員とのコミュニケーションをとってこそ、そこから信頼関係が生まれ、指導、助言ができ、相手の反応を感じられるということです。日々の中で、職員とどのようにコミュニケーションをはかるかを意識し、大切にしたいと感じたことをあげたいと思います。

☆傾聴する。

目や表情を見ながら話を聞く。途中で意見を言わず、まずは最後まで話を聞く。聴いて気持ちに寄り添う。共感する。

☆良いところ探しをする。

具体的に言葉にしてその時、その瞬間に伝える。自信や意欲につながっていくように。



☆ありがとう！を伝える。

当たり前と思うことでも感謝の気持ちを言葉にする。
気持ちを込めて伝える。

☆相手をよく見る！

日頃から行動、言葉、表情など、相手の姿をよく見ることがまず大切！

職員だけでなく、
子ども、保護者にも共通
すること

☆結果だけでなく、主体性を大切に！

職員自ら、考えたり行動しようとしたことなど
意欲、過程を認める。

☆ひとりひとりに応じた助言の仕方、伝え方を！

すべてを丁寧に伝えるのか、少しだけ助言し、あとは自分で考える時間をとり、最終確認を一緒にするなど、個々に対応の仕方考える。

「一人一人みんな違ってみんないい」職員にも個性があり、様々な思いがある。こちらの思いを先に伝えるのではなく、まず相手の思いを受けとめ認めていくことで対話できるようになることに気付いた。職員に様々な思いがある中、日頃からコミュニケーションをしっかりと、個々の主体性を尊重すると共に何よりも「**子どもの育ち**」を大切に、園で共通理解を深めていけるよう一緒に考え、学び合っていきたい。

～研究メンバーの感想～

主任の役割として「保育の質を高めるための環境づくり」「保育を語れる職場の環境づくり」にあるということに改めて感じた。

「振り返り」「明日につながる記録」「保育の話をする」「子どもの育ちを考える」大切さを学んだ。

実践記録をとることで、客観的に見ることができ、子どもの発見・気づきの大切さを伝えていくことができた。



全職員で子どもの姿を共有する中で「子ども理解」を深めていくことが大切であり、そのためには「保育の振り返りを大切にすること」「職員への助言」を気を付けた。主任として、保育士と保育を振り返り語り合う時間を大切にしていきたい。

子どもを「見る」ことで発見や気づきになり、記録することが振り返りや共有のものになり、その振り返りから次につながっていく。同じことが、保育者が保育を「見る」ことにも言え、共感し合うことを大切にしていきたい。

この研究会のメンバーは、各保育所・保育園の主任の方々です。テーマは「ふりかえりを通して、リーダーとして学び合う雰囲気を支えよう」です。リーダーとして、現場の保育士さんたちをどのように支え助言するか、リーダーの力量を高める研修です。

「保育士さんを支え、助言する」立場は、保育を運営する上で非常に重要な立場であり、その園の特徴が現れます。「園の目標、育みたい子ども像」を具体的に実践するのは各クラスの保育士さんたちですが、それらの実践を、園独自の特徴として作りあげていくのが主任の役割でもあります。時には、それぞれのクラスの実践を、園全体として見直しをもって軌道修正しなければなりません。そのために、職員への助言が必要となります。そこで、研究会では、この1年を通し、各園で指導助言した実践記録を持ち寄り、意見交換しながら互いの実践から学び合いました。

リーダーとして指導助言するには、リーダー自身の保育観を磨き、より子ども理解ができていなければなりません。方法論や保育の技術を指導するのではなく、保育者と一緒になって、それぞれの場面で子どもの心をつかみ「子どもの姿」を語り合うことです。「子ども」を核に据え、園の職員が「子ども理解」のためにみんなで語り合える雰囲気づくりをするのが主任の一つの仕事です。現場の保育士さんと一緒に「子どもから学ぶ」姿勢で保育所運営をするには、主任の役割は大きいものです。そのために、自分自身の保育観を磨き続ける必要があるのです。

研究会のまとめから、1年間の研修を通し、保育の仕事の原点を考え、初心に戻り保育を考える機会になったようで、このことは大きな成果だったと思います。きっと、現場の保育士さんたちと一緒に、子どもたちと一緒に、保育を考え学び続けようとする姿勢、後輩保育士たちが憧れる主任さんの姿が身に付かれたのではないのでしょうか

東大阪大学 吉岡真知子